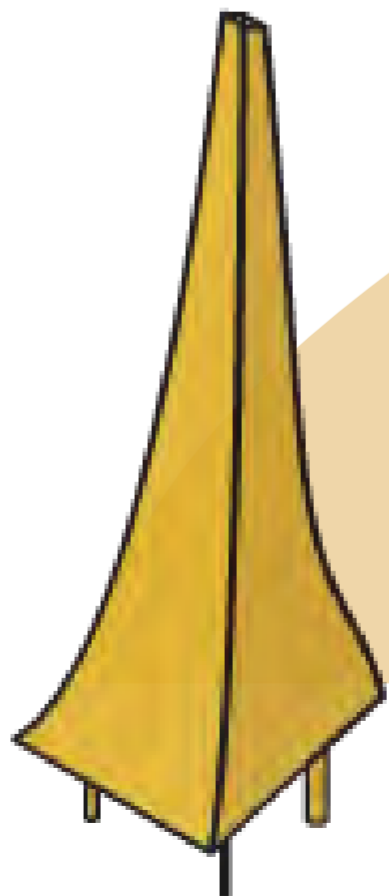
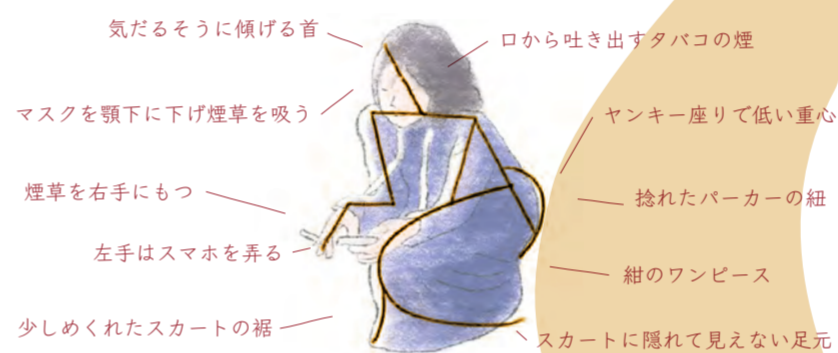


# 煙草と閑古鳥

枕 美しき哉、人の業たる路上喫煙



一・焼肉屋を営むお菊。店はすっかり閑古鳥が鳴いている。仕方なく店先で一服していると煙突のような何かが頭上に被さっていた。



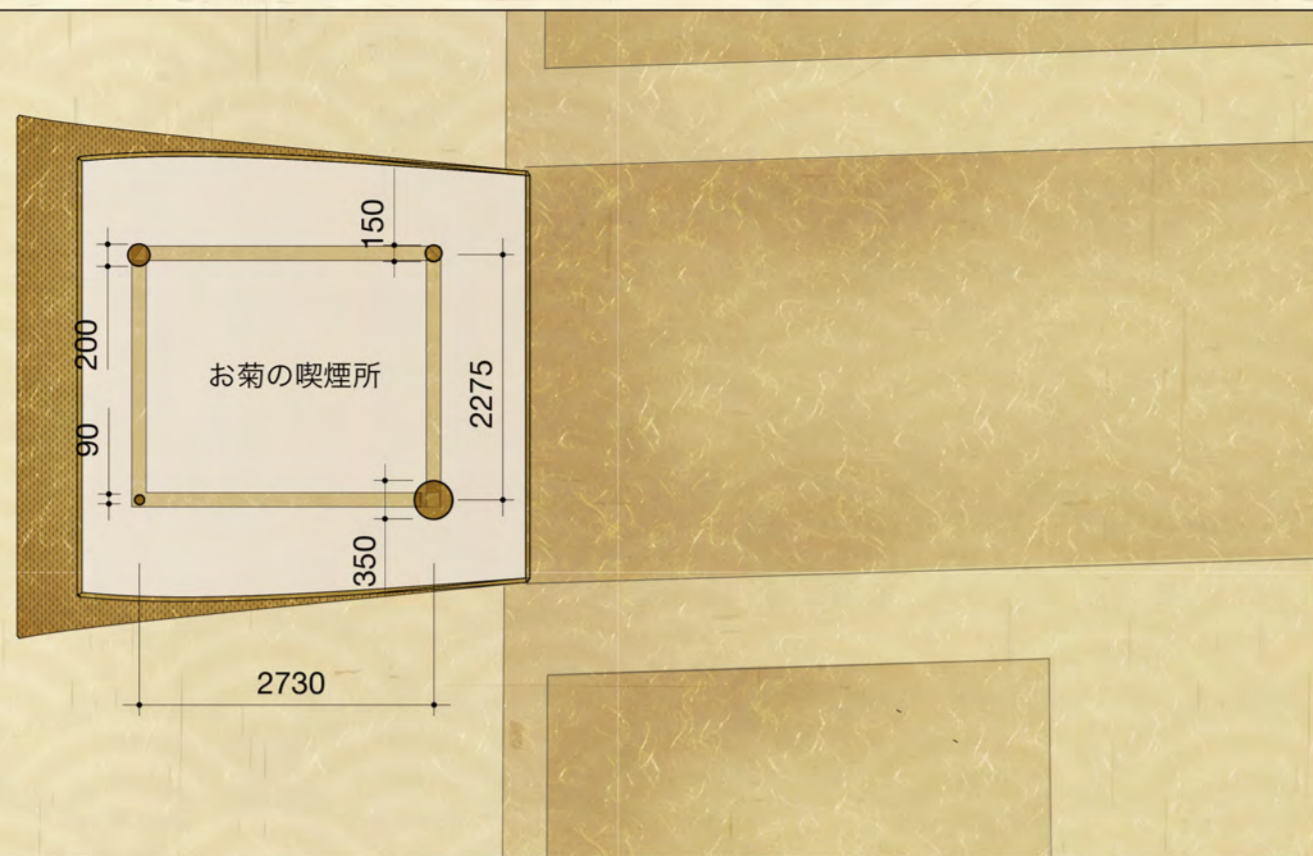
「どうしたもんかねえ。。。」

不思議と心地良い——  
もうしばらくここで時間を潰していよう。

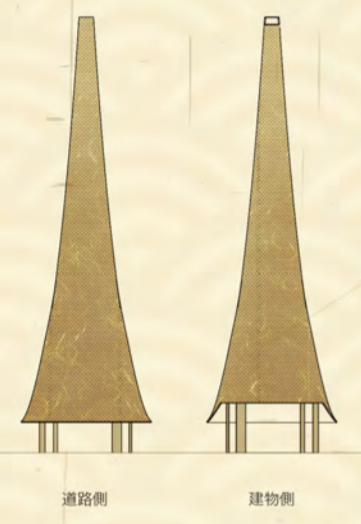
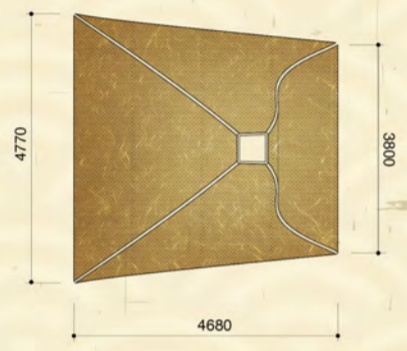


「んん、なにやあの煙は？」

二・仲見世を歩く若旦那。ふと向こうで煙が上っているのが見えた。ヘビースモーカーな若旦那、何かを察した彼は煙の方へ歩き出した。



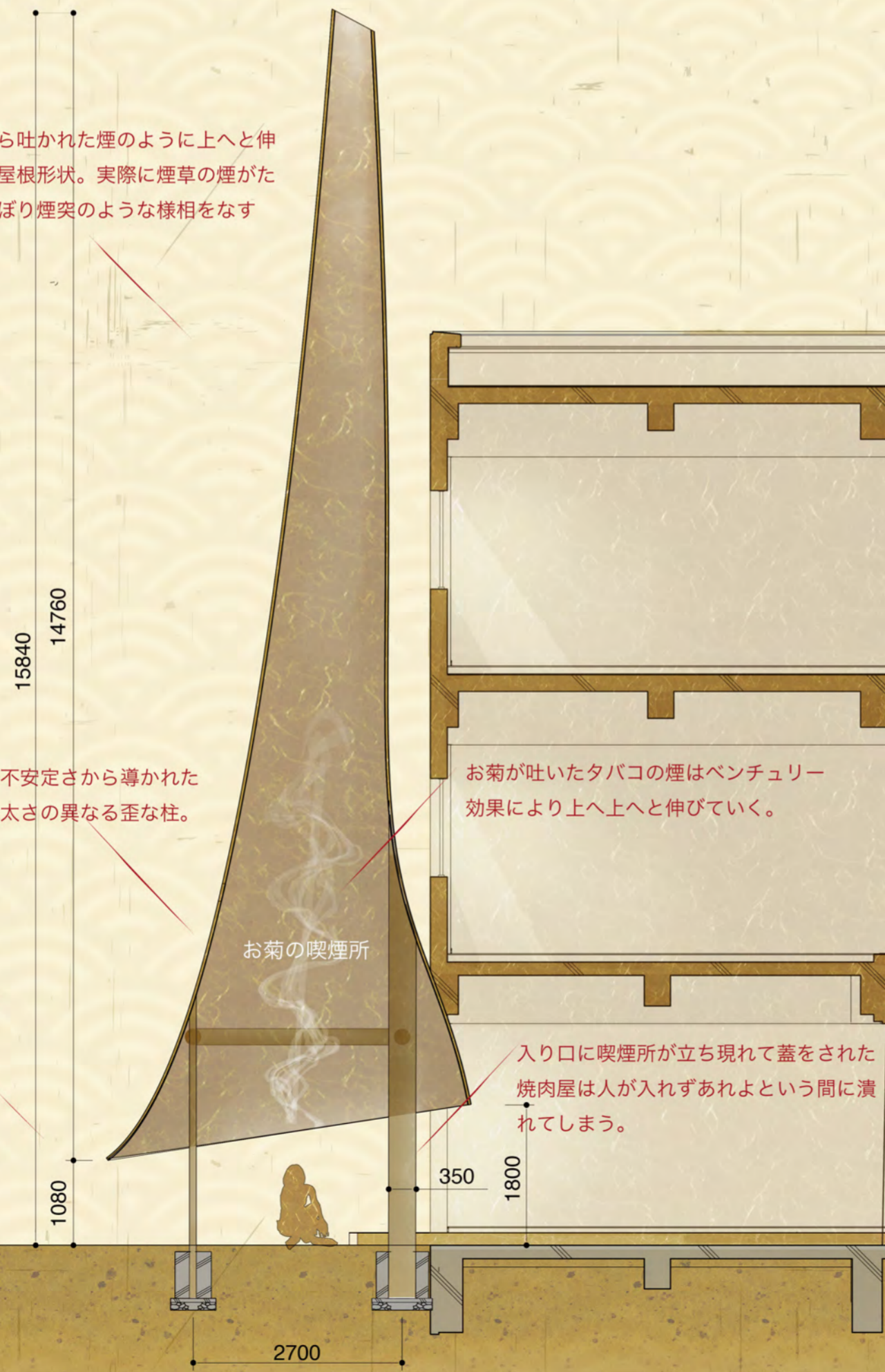
平面図 S=1/50 0 1 2 3m



口から吐かれた煙のように上へと伸びる屋根形状。実際に煙草の煙がたちのぼり煙突のような様相をなす

ヤンキー座りの不安定さから導かれた低重心の形態と太さの異なる歪な柱。

少しめくれたスカートのように内部が見え隠れする程度の高さの庇



断面図 S=1/50 0 1 2 3m

お菊が吐いたタバコの煙はベンチュリー効果により上へ上へと伸びていく。

入り口に喫煙所が立ち現れて蓋をされた焼肉屋は人が入れずあれよという間に潰れてしまう。



「すいやせん、こらあ一体なんの行列です？」

「どりやら喫煙所だそうで」

鳴いていた閑古鳥は、ぼっくり死んでしまった。

三・着くと煙突の前に行列が。聞けば、喫煙所らしい。ならばと私も一服いただくことにする。その後も行列は連日連夜途絶えない。入口に人の列で蓋をされた焼肉屋は客が入れずあれよと閉業。

